

平成28年8月25日（木）

第8回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成28年8月25日(木) 午後2時00分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委 員 北嶋扶美子
 委 員 豊島 秀範 委 員 長谷川浩子
 委 員 足立 俊弘
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員

教育総務部長	小島茂明
生涯学習部長	小林信治
教育総務部次長兼総務課長	増田謙二
生涯学習部次長兼生涯学習センター長兼生涯学習課長	吉成正明
学校教育課長	吉川廣一
文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長	鈴木 肇
指導課長 大島慎一 鳥の博物館長	斉藤安行
図書館長 今井政良 教育研究所長	水戸勝英
公民館長補佐 田口義典 少年センター長	羽場秀樹
	文化・スポーツ課主幹 小林由紀夫
教育総務課長補佐 森田康宏	
6. 欠席事務局職員 生涯学習課主幹兼公民館長 丸山正晃

午後2時00分開会

○倉部教育長 ただいまから平成28年第8回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第18条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答をお願いします。

会議録署名委員指名

○倉部教育長 日程第1、我孫子市教育委員会会議規則第31条の規定により、会議録署名委員を指名します。北嶋委員をお願いします。

議案第1号

○倉部教育長 日程第2、議案の審査を行います。

議案第1号、我孫子市社会教育委員条例施行規則を廃止する規則の制定について、事務局から説明をお願いします。

○吉成生涯学習課長 それでは議案第1号、我孫子市社会教育委員条例施行規則を廃止する規則の制定について、御説明させていただきます。

1ページをごらんください。提案理由は、我孫子市社会教育委員条例の廃止に伴い、その条例施行規則についてもあわせて廃止するため、提案するものです。

この理由を補足させていただきますと、社会教育委員条例は、ことしの3月に生涯学習審議会条例を定めたときにあわせて廃止したのですが、本来はこの規則についても、そのときに廃止すべきであったのですが、手続が漏れてしまったため、このたび廃止するというものです。

なお、この廃止の規則については、この裏の2ページの附則のとおり、公布の日から施行するというものになっています。説明は以上です。

○倉部教育長 以上で説明が終わりました。議案第1号について、質疑があればこれを許します。——よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 質疑ないものと認めます。質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 これより採決いたします。

議案第1号、我孫子市社会教育委員条例施行規則を廃止する規則の制定について、原案に賛成の委員は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

○倉部教育長 挙手全員と認めます。よって議案第1号は可決されました。

諸 報 告

○倉部教育長 日程第3、諸報告を議題といたします。事前に配付された事務報告、進行予定資料等に補足する説明や追加する事項があれば許します。

○大島指導課長 私のほうから、本年度、小中学校の部活動で、この夏休みに数多くの大会等が行われました。その報告をさせていただきます。

本年度も特に陸上競技、水泳を中心に、本当に数多く子供たちの頑張りが見られたかと思えます。その中で特筆すべきものとして、1番の県大会のところですが、陸上競技におきまして白山中学校が男女総合で県総体で優勝したと、県の1位をとったということになります。ここにはないのですが、実は2位は我孫子中学校になります。陸上競技の1位、2位を市内の中学校で占めたということで、本当にすばらしい活躍でした。

また、団体、個人でその下にあります関東大会、または全国大会に出場し

た選手も数多くおります。全国大会では残念ながら入賞という生徒はいなかったのですが、準決勝に進んだ子供たちも多くおまして頑張りが見られました。また、小学校につきましては県大会には出場したのですが、優勝相当については今年度は残念ながら出ませんでした。以上です。

○倉部教育長 ありがとうございます。子供たちの頑張りがとても目立つ御報告だったと思います。

今の報告につきまして、何か御質問があればいかがでしょうか。——よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 特にほかにはないようですので、これより事務報告に対する質疑の時間とします。質疑があればこれを許します。

○豊島委員 1ページのところの学校教育課の毎回の表ですけれども、上のほうの「学区外就学件数6件」の「住所変更を要件とするもの」という、この場合の「住所変更を要件とするもの」というのは、これは学区外ですので、どういうふうに考えたらいいのでしょうか。

○吉川学校教育課長 引っ越しによりまして、別の学区に移った児童生徒がもとの学区の学校に通いたいという希望が出た場合について、登下校の安全確保などを保護者に責任を持っていただいて許可をしているということになります。

○豊島委員 ありがとうございます。その気持ちはよくわかるのですが、小学校ですから1年から6年まであるわけですが、学年とか、それから距離とかというのは大丈夫なのですか。あと1～2年で終わるとか、そういうことではない。

○吉川学校教育課長 卒業学年の方が多く申請をされております。

○豊島委員 ありがとうございます。

○北嶋委員 4ページの指導課の6番です。「夏季市内管理職研修」で、この

内容のところ、今回の講師の方の講義内容が「学校・教員の特質とリスクマネジメント―スクール・コンプライアンスの視点から―」ということで、我々も県とか文科省の研修に行きますと、不祥事をなくしましょうということを必ず言われるのですね。でも我孫子でもいろいろありまして、その後、不祥事防止マニュアルをつくったり、それからいじめ対策をつくったり、いろいろしていますよね。それはつくったけれども、だんだん歩みながらその時々合ったものに変えていきましょうという話もつくったときにあったのですけれども、一人一人がもとのコンプライアンスのところを大事にして、子供たちに携わるということが必要だと思いますけれども、一般社会のあり方と学校が持つべくコンプライアンスとは違うと思いますが、特にこの話の中で今回注目すべき内容があったならば教えていただければと思います。

○大島指導課長 今回講義をいただいた中で、特に学校が何かトラブルを抱えてしまう要因としては3つ挙げられていました。まず学校の組織、そして何か問題があったときの事実調査、そして情報管理、この3つをきちんとしないと問題が膨れ上がってしまうということが、一番私としては印象に残っております。何かあったときに教員個人でなく必ず組織として対応をすることということで勉強になりました。以上です。

○北嶋委員 ありがとうございます。チーム学校といろいろと言われてはいますし、ルールをつくったらそれをどういうふうに戻していくかというのが一番大事なことですので、今課長がおっしゃったようなことが必要だと思います。学校には毎年毎年、新しい方が入られたり、他市からいらしたりということで、我孫子の守るべきコンプライアンスを皆さんに周知していただいて、御自身がわかっただき、時に応じたボトムアップで、今自分たちは、私たちはこういうことなんだよということが、風通しのいい環境が必要だと思いますので、今回の研修を受けられた方が各学校でどのようにお広めになるかわかりません

けれども、全職員の方にくれぐれもきちんと細かいところまで広まるようにしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○豊島委員 戻って済みません。学校教育課の2ページの4番のところですけども、これは「親子料理教室」と書いてあるのですが、参加者は3ページ目の6番と全く同じなのですか。これは事業名は「親子料理教室」でよろしいのですか。「親子」というのは、この場合は具体的には親子は参加はしていないということですか。

○吉川学校教育課長 内容のところで人数が記載されていようかと思いますが、こちらの人数が親子の参加者数になっております。親子で参加しております。

○倉部教育長 親と子の内訳は書いていないけれども、これが親子での参加での人数だということですね。

○豊島委員 内容のところを見たらそうなので、そうだろうとは思ってはいたのですがけれども、参加者のところを見ると全然違うので、こういうふうを書くのかなと不思議に思っていました。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですか。

○北嶋委員 今のところに関してですけども、これは前回の事務進行予定で出ていました。そのとき私は確認しました。今回、この3つの場所でそれぞれメニューが違いますよね。これは先ほどおっしゃった栄養士とかその方々が、自分の地域に合ったものを決められたということですか。

○吉川学校教育課長 それぞれの担当の栄養士がメニュー、内容等を工夫して実施したということになっております。

○北嶋委員 アビスタはアビスタ周辺の学校のお子さんとか、開催場所の近隣の小学生の親子が参加したということで捉えていいですか。

○吉川学校教育課長 その地域の学校が参加ということになっております。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 指導課のところの6ページです。先月から、花火大会もそうですけれども、いろいろなことがあってパトロールとか、これは本当に大変だし重要な任務だったと思います。その中で、人数は少ないのですけれども、3番の「不審者情報」というのがあって、不審な声かけが2件、湖北で1件、白山で1件というの出ているのですけれども、そのほかにファクスにより不審者の情報提供があったとか云々ということもあるのですが、今すれ違いざまに刺されたりとかいろいろなことがあるものですから、ちょっと怖いのであれですが、この不審な声かけの2件というのはどんなような状況だったのですか。

○羽場少年センター長 2件ございますが、まず湖北小学校の件ですけれども、下校途中に後ろからついてきた男の人に「誰々さんの家を知っているか」と聞かれたので「知りません」と答えた後に、あとをついてきたので玄関前までつけられたと。「電話番号を教えろ」と言われたので「教えられません」という答えをして、その後、うちに入ってから父親に連絡して、すぐに父親が帰宅したのだけれども、特に誰も見当たらなかった件が1つ。

もう1つの件ですけれども、「我孫子駅の南口にセブンイレブンがある？」と聞かれたので、それに対応して「ここにいつから住んでいるの？」等を聞かれて、実際問題、出身中学、名前、年齢、住所等について聞かれて怖くなってしまったので答えてしまったと。それで知人に似ているとか、優しいとか言われて、次に会ったら声をかけるねというような状況があったのですけれども、これについて学校のほうに注意喚起のファクスを流したという形になっております。

○豊島委員 ありがとうございます。それで終わっているということですね。

○羽場少年センター長 はい。

○北嶋委員 公民館にお伺いします。11ページからですけれども、今回アビコでなんでも学び隊がとて多岐にわたるメニューが用意されていて、子供た

ちはふだんなかなか接することができないことに接しられたと思います。そのメニューについてですが、これだけいろいろなメニューをお選びになったとき、この講師の方との連携というか、そういう講師の方を見つけるルートは公民館の皆さんでお探しになったのでしょうか。

○田口公民館長補佐 講師の方との調整ですけれども、そちらのほうは社会教育指導員さんのほうをメインとして、前年の実績等、あと、ほかの方のお話を聞きながらふさわしい方を決めております。

○北嶋委員 いろいろなもので、ふだん学校や家庭では接することができないメニューがあって、とてもいいなと思いましたのでお聞きしました。ありがとうございました。

○豊島委員 それとのかかわりで12ページの2番目の「保育スタッフ事業」というところですが、こういうことはすごく子供を育てている親にとっては、特に母親にとってはありがたいことだと思うのですよね。7月1日から31日まで参加者15名、2歳児から就学前児童を対象としたものですがけれども、この15名というのは、前回も大体このぐらいだったのではないかと思うのですけれども、多いのですか、少ないのですか。

○田口公民館長補佐 毎回、公民館事業を行うときに、この保育スタッフはボランティアの方をお願いしているのですけれども、保育スタッフの方は2～3名ずつ繰り返しで入っております、実際に保育を受ける幼児については2人～3人という形で推移してきておまして、それが多いか少ないかとすると、今の状況では判断がつかないのですけれども。

○倉部教育長 大体、同じような感じで推移しているということによろしいですか。

○田口公民館長補佐 そうです。

○豊島委員 保育スタッフの方が2～3名ということは了解ですけれども、2

～3名だから15名ぐらいの参加者で頭打ちと、そういうことではないのですよね。

○田口公民館長補佐　そういうことではございません。

○豊島委員　これは曜日が決まっていて水曜日だけなので、しかも午前中だから、こういうことなのだろうとは思いますが、これをずっと続けているわけですね。これは水曜日だけ、それだけで一応こちらの狙いは果たしているだろう、ほかの曜日にも広げていく必要はないなという、そういう判断でいいのですか。

○田口公民館長補佐　それ以外に、図書館の事業等がありますときにお願いしている場合もございます。限定した水曜日でなく、それ以外の図書館の事業等があるときに開いている場合もあります。

○豊島委員　ありがとうございます。おっしゃっていることわかります。今私が質問しようとしているのは、週1しかも午前中というのは、全体的な割合から言ったら少ないと思います。子育てのしやすい市というのを我孫子市は狙っていますから、お子さんを育てているお母さんが図書館を利用したい、あるいは公民館を利用したいというときに、それが利用できる体制がより整えばそれに越したことはないので、これ以上予算等のあれで今のところふやせない。必要なだけでもふやせない状態だと、あるいはふやす必要はないんだというふうな、その状況把握というのはある意味では必要だと思うのですよね。そんなことが頭にあったものですからお聞きしました。今のところは、それ以上は必要がないというような判断でいいですね。

○田口公民館長補佐　今の段階では、公民館事業との連携で行っておりますので、今の状況では足りるかなというところであります。

○豊島委員　ありがとうございます。

○倉部教育長　よろしいですか。

公民館のほうにお願いします。現状どういうふうになっているか、あるいはその利用のニーズあるかどうかというのは、まだ未知数のところも多分あるのかと思いますので、その辺今後の研究課題として、必要があればというところを研究してほしいという要望だと思いますので、その辺についての検討をお願いします。

○北嶋委員 今の件で確認ですけれども、これは市のほうで用意してくださっている保育の担当を使うということですが、自主的なグループで、この部屋があいているときに、この部屋を借りて自主的に保育の時間をつくってスタッフをつけてということで、この部屋を使うことは可能ですか。

○田口公民館長補佐 現段階では、部屋があいている場合は部屋を開放している状況にあります。そういった団体等がその部屋を使用したいという形で、その部屋があいている状況であれば問題ないと思います。

○北嶋委員 もう一回、確認です。水曜日はこれで使っていますけれども、あとのあいている時間はフリーというか、どの親子でも使えるようになっているから、それをどうやって使っても、その趣旨に反しなければ大丈夫ですよということですね。最低限、安全や何かはもちろん確保しますが、そういうことでいいのですか。

○田口公民館長補佐 そのとおりです。あいている場合は自由に入っていて使っておりますので、そういった団体等についても使うことも可能ですので、本来の使用目的であれば問題はないと思います。

○倉部教育長 よろしいですか。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 私のほうから、その申請については窓口を通してということですよ。あいているからということで簡単に入ることはできないので、その辺の把握はしているということですね。

○田口公民館長補佐 窓口のほうへ申し込んでいただいて、あいていれば入っていただくということです。

○倉部教育長 わかりました。

○北嶋委員 15ページですけれども、鳥の博物館にお伺いします。「(3)夏休み自由研究相談」ということで、これも毎年開いてくださっていますけれども、ことし相談に来た件数とか子供たちの様子はわかりますか。

○斉藤鳥の博物館長 21件、きょうまでのところで質問がありまして、質問の多さというのは、夏休みの始まりと、それから昨日あたりから、これから最後の1週間ぐらい、またふえるかと思います。

1つ特徴的だったのは、小学校で我孫子の特徴的なものを探してレポートを
しなさいというような宿題が出たそうで、それで鳥の博物館に来てくれた子供
さんも多かったです。

○倉部教育長 とてもわかりやすい回答だったと思います。

○豊島委員 今の鳥の博物館のところですが、(4)夏の遊びと研究
大集合2016」というところの8月6日、7日、11日、13日、14日、
人数が相当の数に上っているのですよね。「(5)8月のてがたん」にしても
そうだし、その次のページもそうなのですけれども、着実にいろいろな行事を
継続しながら参加者がふえているなど思うのですけれども、この経緯をごらん
になっていて、鳥の博物館に参加している、あるいは来てくださっている人々
の動きというのを今どんなふうに感じておりますか。

○斉藤鳥の博物館長 毎年やる内容に関して、例えば「夏の遊びと研究大集合
2016」のメニューについては、やってみて人気のあったものというか、喜
ばれたものをまた次の年に生かしていくというような形でやっていて、残って
きたのはすごく人気のある選ばれたものということもあって、人数がふえてき
ていると思うのです。ただ、これも同じネタばかりやっているとマンネリ化す

るので、また新しい試みを試行していかなければとは思っていますけれども、とりあえず人気のあるものと、新しいものを混ぜ合せながらやっています。

この「夏の遊びと研究大集合」を何年間やっているのと、夏になるとこういうイベントがあるということが、お子さんが何人かいらっしやると、何年間かはその対象になるので、やっているということを知ると、夏休みの宿題をするための方策というようなことで利用される方もいますし、全く別に遠くから来られた方が何かやっているのでおもしろそうだとのぞかれる方もいますし、そういう意味では目的を持ってこられる人と、飛び入りで来る人が半々ぐらいというような、言ってみればリピーターではないですけども、リピーター的に知ってくる人と、それから新しくのぞいてみる人と半々ぐらいなのかなという気がしています。

「てがたん」に関して言えば、これもお天気とか、その季節によって本当に波があるのでですけども、5月ごろが一番多かったりとか、8月は本当は人数が少ない時期なのでですけども、テーマを魚釣りと、これは観察会としては正しいかどうか、少し検討が必要な部分はあるんですけども、とにかくやったことがない人がいる中で、夏で暑い中、鳥を見て歩いてたり、花を見て歩いたりすると子供たちは飽きてしまいますので、こんなことを交えながら手賀沼周辺にいる生き物はみんなつながっているのだよということを伝える。そういう工夫すると何人か来てくれるのかというようなことを感じております。

○豊島委員 ありがとうございます。鳥の博物館のいろいろな工夫と、その工夫の継続がかなり浸透してきていいなというふうに私は思っているのです。これを見ていてうれしく思います。

それは同じ鳥の博物館の16ページの「(4)62回テーマトーク」のところもそうだし、「地域の特色のある研修」という小中学校の初任者研修のところでも、先生方がそうやって来てくれているというのはいいことだと思うので、

これもさらに意欲的に続けていってもらいたいと思うのですが、「(2)平成28年度教員10年経験者研修」のところの湖北台東小学校の教諭1人というのはちょっと寂しくありませんか。

○吉川学校教育課長 こちらにつきましては、県の研修で悉皆研修になっておりますが、本人が学校以外の関係機関に体験で研修に行くというようなことで、教員が自らどこへ行くか選ぶということですので、人数については全員がということではなくて、たまたま湖北台東小学校の1名の教諭が我孫子の特徴的な鳥の博物館を選んだというようなことになります。また10年度研修につきましては、徐々にふえていますけれども、まだ採用の少ない時代の教員数になっておりますので、御理解いただければと思います。

○倉部教育長 よろしいでしょうか。

○豊島委員 もろもろ了解しております。ただ1名というのが、ちょっと寂しかったものですから申し上げました。ありがとうございました。

○倉部教育長 この内容について、10年研修対象者の全員に対して1人ということではなしに、10年研修者の中のそれぞれ個別事情の中で来た人がいたということで理解するというところでよろしいですか。わかりました。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 14番ページの2番です。これ去年も子供たちが杉村楚人冠記念館のパンフレットをつくってネットにもアップしてくれて、とてもいいのができていて、たしかアビシルベでも展示してくださっていたのかな。ことしは5人ということですがけれども、できた後の物はそうやって市民に公開できるような状況にあるのでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 まだ日程は決まっていないのですが、杉村楚人冠記念館のほうに展示する予定です。

○北嶋委員 それをまたホームページにアップするとか、そういう考えはまだ

ありませんか。

○鈴木文化・スポーツ課長 詳細が決まりましたら、ホームページに掲載します。

○北嶋委員 18ページですけれども、前回私が申し上げて、皆さん項目を整理してくださってありがとうございます。「4. 実習・研修・職場体験受入」のところで、今回、ここでJOYボラ体験活動ということで全部入っていますが、このJOYボラというのは市民活動ステーションがやっていることで、子供たちがその中から探して自分で申し込んでという流れができていると思いますけれども、これは学校の職場体験と一緒にJOYボラがジョイントするという考え方でよろしいのでしょうか。

○今井図書館長 学校側の内情までは私どもはわからないのですが、JOYボラ体験依頼ということで学校のほうから依頼がございまして、かなり期間のないものもありますので、これ以外にも受けているものが多分あるかと思えますけれども、今でもそれは実施しております。小学生、中学生、高校生、大学生までの職場体験という形で受け入れる体制ができてございます。

○北嶋委員 JOYボラをすると、後で修了証をいただけますよね。修了証ではなかったかな。活動証明書みたいなものがたしか出ていたと思いますけれども、それは市民活動ステーションがつくったものを学校経由でそれぞれのお子さんにも配られると考えていいですか。

○今井図書館長 図書館のほうでそれは出しておりませんので、恐らく今おっしゃったような流れなのかなという気はしますけれども、要確認という形で残させていただきます。

○北嶋委員 もう一回確認ですが、今回のJOYボラについては、学校経由で図書館に体験申し込みが来たということでよろしいですか。

○今井図書館長 はい、そうです。

○豊島委員 今のところを、もう一回私なりに教えてもらいたいのですけれども、これはすごくいい活動だと思います。職場体験の受け入れはいいと思うのですけれども、これはどれも、たまたまなのでしょうけれども、日にちが8月9日が1人、1人で2人、10日が1人、11日が1人、7月22日が1人、8月3日が1人というような、ばらばらでこうなっているのですけれども、このように8月9日を一括しないで、それぞれの参加者のところを別々に書いていってやっていたというのは、これは何か意図があるのですか。

○今井図書館長 この日程につきましては、当然学校から連絡が来たときにある程度希望日があるのですけれども、実は受け入れる私どものほうにも、申しわけないですけれども都合がございまして、体験される施設もアビスタ本館であったり、湖北台分館だったり、布佐分館だったりするところがございまして、それぞれの施設の規模もありますし、希望される生徒さんの数というのも1人、2人というのが大体通常の数になっておりますので、その中で割り振られた日程というふうに御理解をいただければと思います。

○豊島委員 「実習・研修・職場体験受入」という項目なのですけれども、本館なり、湖北台分館なり、あるいは布佐なりということなのですけれども、これは1人、それ以上申込者があっても受け入れられない、そういう状況なのですか。

○今井図書館長 分館でも2人程度までは受け入れることはあるのですけれども、たまたま今回の希望者が1名ということで、2名であったところも、生徒さんの都合によって1名になってしまったといった場合もございます。ただ、結果として、今委員がおっしゃったように1人のところが多いというのは、本年度の今回の報告の結果ということになっております。

○豊島委員 キャパシティーというか、それは状況によっていろいろでしょうけれども、2名ぐらいは受け入れられるという状況だということですね。あり

がとうございました。

○倉部教育長 ほかに事務報告に対する質疑はありますか。

○長谷川委員 今のところの質問をしたいのですけれども、今回は図書館の受け入れということで、ここに記載されているかと思うのですけれども、先ほど北嶋委員もおっしゃっていたJOYボラとキャリア教育とのコラボという件で質問をしたいのですが、うちの子が小中学校のときに一覧になったパンフレットをいただいてきたことがあったかと思うのですけれども、今も学校でそういうものを配って、こういう体験をしてもらっちゃいというふうなことはやってもらっちゃるのでしょうか。

○倉部教育長 キャリア教育も兼ねて、いいですか。

○大島指導課長 中学校におきましては、各学校で期間を定めてやっているのですが、通常ですと、受け入れ先でこういった企業とか、会社とか、お店とかがありますよというものを生徒のほうに示して、その中で生徒が選ぶというやり方をしている学校もあれば、ほとんど子供たちが自分で見つけてくるというのを尊重している学校もあります。

○北嶋委員 要するにJOYボラというのは、市民活動ステーションが子供たちに、いろいろな社会体験をしましょうよというのが市民活動の目的で、学校はキャリア教育ですので、多分今回それがマッチングしてやっていて、市民活動ステーションからはJOYボラのお便りかニュースレターが各学校に配られると思うのですけれども、その辺で子供たちが見つけたり、ネット上にJOYボラのページがありまして、そこであったり、昨日たまたま私が行った店にはドアにポスターが張ってあって、「職場体験受入」と書いてあった。多分いろいろな方法で、市民活動のほうからと学校のほうがマッチングして、子供にはいろいろな情報として入っていて、子供がそこからみずから選んで、今回お聞きしたら学校経由だということでしたけれども、JOYボラそのものは子供が

行きたい施設にアポをとっていくというのが本来の目的なのですが、今回は多分職場体験教育と一緒にしているので、こういう形をとられたのかと思いついて、私もここにJOYボラが出ていたのが、ある意味すごくいいなと思っていたので先ほど伺いました。

○倉部教育長 ありがとうございます。事務報告についてなければ打ち切りですが、よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に事務進行予定について、質問があればこれを許します。

○北嶋委員 8ページです。生涯学習課の生涯学習推進事業で、今回「卒サラ講座「人生は定年後が面白い！！」」ということで4回講習が載っていました。これは、たしか7月の生涯学習推進審議会の中にも生涯学習推進事業についてという項目があって、そこで決まったのかなと思いますけれども、これについてお聞きしたいのは、どのように参加者を今募集しているのか、まず募集について伺います。

○吉成生涯学習課長 この募集に関しては、7月1日からアビスタのストリートでパネルとかポスターを展示しまして、あとチラシも配布して、まずはそこで事前のPRを行いました。正式には9月1日の広報に載せて、来週月曜日の記者会見でもチラシ等をマスコミに配布してPRするという予定になっています。

○北嶋委員 それで4回コースということですね。今回の推進事業の目的である学んだことをまちづくりに生かそうということだと思いますけれども、何人募集して4回までの講師はどういう方がなさるのか。今回は書いてありますけれども、ほかの方がわかれば教えていただけますか。

○吉成生涯学習課長 まず講師の方は、こちらにも書いてありますとおり、市

内在中の大和哲さんという、一般財団法人健康・生きがい開発財団というところが認定している健康生きがいづくりアドバイザーという方です。

最初の御質問は何でしたか。

○北嶋委員 4回の講師は変わらないのですね。

○吉成生涯学習課長 変わらないです。

○北嶋委員 あと人数。

○吉成生涯学習課長 人数は定員40名ということで、4回通して40の方に受講していただくということです。

○北嶋委員 1人が4回ですか。

○吉成生涯学習課長 はい、1人4回という予定になっています。

○倉部教育長 連続講座ということですね。

○吉成生涯学習課長 はい。連続講座です。

○北嶋委員 卒業した暁には、どこかに体験というか、学んだ方々がまちづくりにつながるようなコースはできているのですか。

○吉成生涯学習課長 初日の9月24日と25日に市民活動メッセをアビスタでやりますので、そこも見学なさっていただいて、何とか4回のコースを通じて、自分がやってみたい活動を見つけてもらえたらなと思っています。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○豊島委員 今の続きなのですが、メッセのほうの自分のやりたいものを探すというのは、今回の4回やっていくものとのつながりというのは大丈夫だなという判断ですか。

○吉成生涯学習課長 済みません。質問がちょっと難しく、もう一度お願いできますでしょうか。

○豊島委員 健康生きがいづくりアドバイザーということですので、テーマは「人生は定年後も面白い！！」ということに即したことだと思えるのですけれど

も、それを4回やっていくわけですね。内容のところにありますように、地域で生きがいや居場所を見つけて輝いてもらえるようにというふうなことを狙うわけでしょう。それに対応するようなものを自分で探してもらいたい、先ほど言った市民活動メッセの中から見つけてもらえればというふうなことをおっしゃったのですか。

○吉成生涯学習課長 その辺については、4回の講座の中の第3回目の中で、我孫子の中でどんな活動があるのか、どんな活動拠点があるのか、そういったことについても情報提供する予定になっています。

○豊島委員 難しいことなのですからけれども、ただ、いろいろな人がいて、本当にすばらしい人がたくさんいて、そういう人たちが我孫子の中で、「定年後地域に帰ってきた方々」と書いてありますけれども、本当にいろいろなことをやってもらえるのですよね。ただし、それがうまく接続されていくというか、うまく設定していくというか、広げてあげないと、なかなかできないのです。自分で探してくれといったって、なかなかできないのですよ。そういう人がかなりいるだろうというふうに思って、そういう人をどういうふうに活用するか、どういうふうにそれを導いていくか、どういう方向で我孫子の中で活躍してもらいたいかということ、言葉がいいかどうかわかりませんが、ある程度ルールを敷くというか、そういうふうにししないと特に男の人はなかなか入っていけないですよ。ですからそのところを今気にして、お聞きしているのです。

私はすごくいいと思うのですけれども、あとは自分でやってくださいよというのでは、これはうまくいかないのですよね。その辺に対しての見通しをお聞きしているのですけれども。

○吉成生涯学習課長 この講座をやった後に、その受講生40名の方々に対するその後の活動状況については追跡調査というか、その辺はフォローして、ど

うにか生きがいを見つけてもらって、何か地域で活動してもらおうということにつながっていくようにフォローしていきたいというふうに考えております。

○豊島委員 難しいことをお聞きして申しわけないのですが、了解です。何年か学んで、それがやがていろいろな意味での指導者になっていくみたいにしていかないとだめなので、そのところは我々もできることはやりたいと思いますけれども、よろしくお願ひしたいと思うのですよね。

○倉部教育長 それに関連して、市民活動の団体講座とか、それから公民館、生涯学習でやっている講座の後、集まって自分たちの中で新たな動きをやるといのが今までのパターンだと思っていますので、このせっかく4回やる連続講座にかかわる人たちに対しても、みずからが仲間をつくって、そういうような活動につながるようなお膳立てをしてほしいというのが多分豊島委員のお話だと思いますので、従来やっているようないろいろな情報を開示してあげて、こういうこともできます、ああいうこともできます。あるいは長寿大学でもやっているようなことをつなげるように工夫をしていただければありがたいなと思っていますので、よろしくお願ひします。

○豊島委員 ちょっとしつこいのですが、もう一回だけ。40名が4回講座で1年間を終わりますよね。来年似たような講座があったとして、その40名は来年は受講はできないのですか。

○吉成生涯学習課長 来年度この授業をまた継続してやるかというのは、まだ未定なのですが、現在40名の定員のところ、アビスタでPRしただけで既に20人以上の申し込みがございますので、多分9月に広報すればさらにまたふえていくのかなということで、今回やってみて、いいところ、悪いところ踏まえて、来年度どうしていくかというのは考えていきたいと思っています。

○小林生涯学習部長 補足をさせていただきたいと思うのですが、今回の講座の内容についてなのですが、これはいわゆる意識づけ、これから要する

に定年をした後に、どういうふうに自分の人生を過ごしていくのかという意味での意識づけというところで、講座の内容を見ましても、まずは今、社会の状況を知っていただく。その次に参加するのも、まずは自治会とか、シルバー人材センターとか身近なところから一步踏み出してみましようということで、そういうものができると、その次につながっていくというような、どんどん広がりが出ていくだろうということでの講座というふうになっていますので、先ほど豊島委員からありましたように、その次につなげていくための材料というのは、そういう身近なところをつないでいこうということで今回は始めております。

それから今回の講師をなさる方も、実は長寿大学の学生さんでして、その方も、ここで講師をすることが、自分の持っているものを生かすというようなことにもなりますし、学ぶということと生かすということが両方この講座で実現できるのかなというふうに思っていますので、先ほど次長からもありましたように、実際に一度やってみて、これを検証して来年度以降ステップアップしていきたいなというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

○豊島委員 よくわかりました。ありがとうございました。ぜひそうしてもらいたいし、大和哲さんが長寿大学で学んだ人であるという、その人が講師をやるというはすごくいいことですよね。学んで、講師をやるというのは、すごくいいと思いますね。それは続けてお願いしたい。来年また40名の中に入ることはできないのですかとお聞きしたのは、いろいろな講座があるのですけれども、2年連続はだめというところが多いのですよ。それはやりたいのだけれども、できないのですよ。できないから人が集まらないという現状も逆にあるのですよね。そこのところは場所もあるでしょうし、40名を超えて新しい応募があるのに、去年とった人がさらにとるということはいかがなものかということとはわかるのですけれども、人数をふやしてでも、2年でも3年でも続けたい

と思う人には続けてもらって、そして学んでもらって、講師のような形になってもらうという方向もあっていいのではないかというふうに思うものですから、人数をお聞きしたのですね。そんなことを思っています。以上です。

○倉部教育長 要望という形でよろしいですか。そういう要望がございますので、十分検討していただいて来年につなげていくということをお願いします。

ほかに。

○北嶋委員 要望の続きでしつこいのですけれども、メッセを見に行きますよね。あれは既存団体ができていて、確かに今、我孫子の市民活動は少し高齢化してきて、新しい方が欲しいという現状があります。でもこの方々は、新たに自分たちが学んで、自分たちのことをつくりたいかもしれない。40人いれば40通りの方法があると思いますので、決めつけしないで、先ほどおっしゃった自治会でもいいし、地域の子供たちの支援でもいいし、すごく幅が広いので、いろいろなボランティアがある中でその方がやりたいことを選んでいただいて、その中にもしかしたらメッセのどこかの団体が入っている方々もいるでしょうし、御自分たちでグループをつくって何かをなさる方もいるでしょうし、今我孫子はいろいろな人材が欲しいので、余り固定せずに、そこに生きがいを書いてあるということで、そうだろうなと思うので、本当に皆さんがやりたいことを選んでいただけるようにしていただけるといいかなと私は思います。

○倉部教育長 要望ということでよろしいですね。

それぞれの御要望はとても大事なことだと思いますので、それについて十分に検討してください。よろしくをお願いします。

ほかにいかがでしょうか。事務進行予定についてなければ打ち切りますが、よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務進行予定に対する質疑を打ち切りま

す。

次に、教育事業全般について質疑があればこれを許します。いかがでしょうか。

○北嶋委員 ことしも教育長もいらっしゃって、我孫子から長崎被爆地訪問に中学生が行きましたよね。去年の半数ですけれども、この子たちがいずれリレー講座の講師になっていただくことはとてもありがたいし、うれしいし、我孫子にとってもすごく貴重なことですけれども、まず行った子供たちが、自分の中学校でそれをどのようにほかの仲間たちと共有しているのか、そういう場があるのかどうかを聞かせていただけますか。

○大島指導課長 今回中学生が参加しているわけですが、大概の学校ですと、この2学期、大体10月から11月にかけて各学校で文化祭、また文化祭に近いような文化発表会が行われます。その中で通常ですと、長崎あるいは広島等に参加した生徒たちが全校生徒に発表する場を設けまして、内容は各学校それぞれですけれども、そういう場を必ず設けて生かすと。自分たちの代表がこういう活動してきたということを知ってもらおうというふうにはしております。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 よろしいですか。私のほうもその辺の話を聞いておりまして、その集大成として、もう一度みんなが集まって市民に報告会を開くというところまでが、子供たちのワンクールになっています。もう既に行われていますけれども、リレー講座の中に極力現役の子供たちがアシスタントとして入って、次の講師になるという動きも大分活発になってきておりますし、昨年、広島に行った子がアシスタントとしてもう既に動いていますので、市民団体と一緒にあって、そういうものは引き続きやっていきたいなと思っていますので、ぜひ皆さんも平和リレー講座に足を向けていただけると励みになると思いますので、応援をよろしくお願いします。

○北嶋委員 それともう1つ、我孫子高校で県の事業で私たちも参加させていただきましたけれども、あれを見ていると、私は素人ですから、ふだんアクティブラーニングはこうやって子供たちの力をつけていくものなのかなと思いましたが、あれを終わってきて中学生の感想などはとれていますか。

○大島指導課長 済みません。あれは県の行事でして、感想はとれているのですが直接県のほうに行っておりまして、ちょっとこちらには情報が直接は入ってきていません。申しわけありません。

○倉部教育長 私のほうからの要望ですけれども、ぜひそれを取り寄せていただいて。と申しますのは、教育委員さんも多く会議に参加したのは、我孫子でも同様のことができないかというものの1つの参考になると思って皆さんいらしていただいたと思いますので、ぜひその辺は情報をとっていただければありがたいなと思います。あの子供たちの感想の中にも、1回だけではなしにというような感想が何人もありましたので、県にそれを求めて実現するのか、あるいは市でそれに変わるべきものを用意するかというのはとても大事なことで思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

○豊島委員 私もそれをお願いしたいです。参加してみて、子供たちによっていろいろ差がありました。大丈夫かな、早くやらないと時間がないよというふうに思ったりして、でも最後のところまで一生懸命頑張って、それぞれにまとめて、発表もまあまあよかったのではないかなと思うのです。あそこに参加して経験した子供たちはすごくよかったと思うのですけれども、あれは本当に一部の生徒たちですから、あの経験なり何なりを少しでも多くの人を経験したほうがいいし、その経験、体験みたいなのが今あったみたいに、それがもう少しお互いに知ることができるというふうになればいいなと私も思いますので、計画するのは大変なことですが、あるといいなと私も思いますので、お願いしたいです。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですね。この件について、よろしいですか。では別の。

○北嶋委員 今回夏休みが終わりますけれども、部活動や何かでこれだけの成績を上げられて、先生方もさぞかしお忙しかったと思いますけれども、各学校で全部の先生がお休みするような状態がとれているのか、それとも各自必ず休みなさいとしているのか、子供たちの夏休み中の先生の休暇について、わかる範囲でお願いします。

○吉川学校教育課長 まず夏季休暇ということで、サービス上6日間とれるようになっております。それから日直を置かない日ということで、お盆の期間、本年度は土日が13日、14日にかかりましたけれども、13日、14日、15日の3日間は日直を置かずに学校のほうは機械警備というようなことで、単純にトータルすると9日間は休めるようにはなっているかと思えます。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 多忙化が叫ばれているので、せっかくの休む機会には十分に休んでいただきたいという思いが多分委員の中にあると思いますので、よろしくをお願いします。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○豊島委員 端的に言えば教員の多忙化なのですけれども、今は国でも動いているし、いろいろなところで動いているのですけれども、教員のオーバーワークというのは普通の企業であれば考えられないです。無料奉仕ですからね。そんなことは普通考えられない時間数です。これは余りにもひどいではないかということで、今、国とかいろいろなところで動き始めているのは御存知のとおりなのですけれども、我々、我孫子市もそれに何にも異なるものではないので、今のままずっと続いていっていいというふうには私は思わないし、日本全体でも思っていないと思います。

ですから、我々も我孫子市なりに、どこをどうしていったらいいかということとは考えていかなければいけないだろうと思っています。学校訪問をみんなですせてもらって以来3年ぐらい、私はそれを言い続けているような気がするのですが、やはり忙しいですよ。ですから、そのところをもう少しどうしたらいいか、お金かけないで何とかならないかという知恵の出どころではないのかなというふうに思うのですよね。いろいろなことでどんどん忙しくなっていく中で、さらにまた一貫教育もやってもらわなければとなると、願うするほうも心苦しいところが私の中であるのですけれども、それを何とか計画を練るような、あるいはこういう意見交換をするような場というのはないのかなと正直に思っているのですけれども、ありませんか。

○倉部教育長 非常に難しいテーマで、ずっとこのメンバーでいろいろな機会に先生たちと直接お話しをさせていただいているのですけれども、正直この何年間の中で、抜本的な解決策はなかなか見つけられなかったと思います。先生たちのやる気をそぐような解決方法ではなくて、それをしっかり守った上で、子供たちと向き合う時間をどういうふうにつくっていくか、それ以外の時間をどこに振り向けていくかというところが手段として見つけられれば一番いいわけですね。その1つの方法としては、校務システムを入れたりとか、システム上の事務的な改善については、学校現場とあわせてやってきているつもりです。ただ、それだけでは追いつかない、いろいろなプラスアルファの多忙化があるというところですので、それを学校現場と教育委員会だけではなしに、できれば本当は家庭も含めて、子供たちと先生たちの置かれている状況というもの理解し合えれば、もうちょっとよくなるのかなというところはあるのですけれども、それぞれが残念ながら余裕がない。家庭においても、それから先生たちにおいても、子供たちも余裕がないという状況を見てみると、すぐに対症療法として特効薬は残念ながらないかなと思っています。ただ、それをみん

なで意識することによって、少しずつ変えていかなければいけないというところを今目指していると思いますので、振られて答えを出せない歯がゆさはあるのですけれども、少しずつみんな豊島委員がおっしゃられたように話し合いをして解決できればいいのですけれども、その話し合いをする時間をつくることさえも大変だというのが現状ですので、それぞれの学校の中で、それぞれの先生方が本当に大変なのだよというところを、自分たちでできることは、ここを改善できる、あるいは家庭の中でもこういうふうに見えるという一つ一つの積み上げを真剣に考えていくしかないかなというふうにはずっと思っています。

解決策がなくて本当に歯がゆいのですけれども、何とかしようというふうにいる気持ちはみんな同じですし、学校現場もそうだと思いますので、一つ一つの積み上げでしょうか。お話をしても、先生たちも、場合によっては多忙ではないとおっしゃる先生もいらっしやったではないですか。それはすごく一生懸命やっている方が、自分たちがやらなければいけないというふうな意気を感じてやっている先生は、そう言ってしまうわけです。言わせてしまっているかもしれない。その言わせてしまわないように、私たちがいろいろなことをやらなければいけない。ただ、言っている先生の思いも、そうではなくてだめだということではないのですよね。やってくださっていることはとても素晴らしいことだし、立派なことだし、その気持ちをそがずに本当にもっとそれを生かせるような時間をつくれないか、その辺をもうちょっとそれぞれ学校の中で、あるいは学年の中で、教科の中で考えていったほうがいいのかというふうには思っています。

改めて時間をつくるというのは余計大変なので、今与えられているそれぞれ学校の組織の中で、校長先生あるいは教頭先生、教務の先生、それぞれの先生とのやりとりの中で、そういうものを見つけていってもらおう。あるいはこういうやり方もあるよという例を示せば一番いいのですけれども、そういうふう

にしていきたいなと思っています。答えにならなくて、申しわけありませんが。

○豊島委員 ありがとうございます。私もそう思います。私は我孫子市の教育現場で体も動かしていないのに申し上げるのは偉そうな感じになるのかもしれませんが、我孫子の教育を少しでも何とか頑張って、小中一貫教育をして何とかという、どうしたって余力が必要になってくるのですよね。そうでないとできない。そのところを考えていくと、日本の中だけでもいろいろなところ見て歩かなければいけないし、あるいは外国のそれを見て歩かなければいけないのかもしれない。そうでないと、だんだん厳しくなってしまうなというふうに思います。小中一貫教育を何とかうまくやっていくためには、本当にみんな真剣になって考えなければいけないなというのは、しみじみ思っているものですから、「つなぐ」というものを見ながら今思っていたのです。

教育長の先ほどの意見につけ足すものは何もないのですが、何とかそういう機会を持たせてもらいたいなとは思っておりますので、改めてよろしく申し上げます。

○倉部教育長 ありがとうございます。

教育全般については、ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。諸報告に対する質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 以上で平成28年第8回定例教育委員会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

午後3時04分閉会